

新しい価値の創造を通じて、豊かな社会づくりに貢献します



2009 CSR報告書 カボウプラス

目次

トップメッセージ……………1

当社の力点……………3

社会とのかかわり……………6

環境とのかかわり……………8

その他のかかわり……………10

CSR自己評価

世界は今、経済危機と気候変動という 2つの大きな課題と直面しています。

政府は、事実上の景気底打ち宣言をし、最悪期を脱した印象もありますが、まだまだそのようには感じとれません。この状況下を乗り越え、次への備えとして経営面と環境面の両方から、対応策を考えてみました。

環境面での対応

2009年4月10日の「経済危機対策」に盛り込まれた低炭素革命への対策規模は、総額15.4兆円のうち1.6兆円です。日本版グリーン・ニューディール「緑の経済と社会の変革」で、2020年には06年に比べ市場規模で1.7倍に、雇用規模で2倍の試算が示されています。一方、温暖化ガスを2020年までに1995年比で8%削減（民主党公約…2005年比25%）するという政府の中期目標が出されました。今後この目標を達成させるためには、産業部門だけでなく業務部門・家庭部門においても対策が求められているところです。

(1) 業務部門・家庭部門としての対策技術導入目標

主な対策技術	導入目標量	政 策
太陽光発電	現状の20倍 (約2,800万kW)	<ul style="list-style-type: none"> ●固定価格買取制度 ●住宅太陽光補助金
次世代自動車	新車販売の50% 保有台数の20%	<ul style="list-style-type: none"> ●低公害車・低燃費車への税制優遇等のエコカー購入支援補助
省エネ住宅(断熱住宅)	新築住宅の80%	<ul style="list-style-type: none"> ●省エネ住宅の基準強化、対象拡大 ●グリーン家電の購入支援補助
高効率給湯器	現状の40倍 (約2,800万台)	<ul style="list-style-type: none"> ●補助金、融資制度 ●公共部門の率先導入 ●「見えるか」等の情報提供促進

*内閣官房「地球温暖化対策の中期目標について」より

*民主党政権において主な対策技術は堅持(追加はあるかもしれませんが)されるものと予想できます。ただし、導入目標量や政策は変更される可能性があります。

(2) 今後取り組むべき産業部門の課題…農林水産業への新規参入

いよいよ「モノが売れなくなる時代」に突入しつつあるといわれています。これからの成長産業・大切にしなければならない産業は、農林水産業ではないでしょうか。先端技術を用いた農林水産業です。自給率を高め、また雇用の確保につながる農林水産業を活性化するには、株式会社の参入が前提になると思います。当社としても、直接的な参入はともかくとして、この周辺にかかわる事業を展開し、社会に貢献しなければならないと考えています。

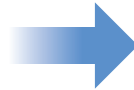
- ①農業ビジネス …………… 野菜や果物の栽培に必要な資材の提供
- ②山林ビジネス …………… CO₂吸収を高めるための森林整備にかかわる事業
- ③水産ビジネス …………… 海や川の環境対策に必要な資材、水にかかわる製品の提供

経営面での対応

世界的な不況の中で業績の厳しさは、本年度中は続くものと覚悟しています。しかしながら企業が生き残るためには、しっかりと足元を固め、世の中が求めている産業に着手すべきだと思っています。以下の課題をこなし業績を回復させ、ステークホルダーの皆さまに早く安心していただけるよう努めてまいります。

(1) 事業構造の見直し

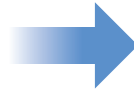
- ・ 歴史ある企業は、何度も主力事業を入れ替えている。
- ・ 企業は永遠でなければならないが、個々の事業が永遠である必要はない。



委託加工事業主体から自社販売中心への転換を図る
(自販力の強化)

(2) お客様の求める商品開発

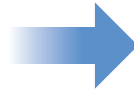
- ・ どんな不況下でも世の中が必要とするものは必ずある。
- ・ どういうものを世に送ればお客様に喜んでいただけるのか。



農業・山林・水産ビジネスへの調査・参入を進める

(3) 人材育成の充実

- ・ 長期的な視点で能力開発を進める。
- ・ 「健康」および「心」の問題とも向き合う。



人材育成を最も大切にする企業にしたい

ちょっと本論から外れますが、現代人に一番欠けていることは、体を鍛えることではないでしょうか。運動不足による身体機能の低下、年齢・世代を超えて、もっと真剣に体を鍛えることを考える必要があります。老いも若きも体を鍛えて、肉体的に身軽になっておくことが何より大切だと思います。

代表取締役社長 柏田民夫



「品質改善活動」

カンボウプラスは、品質向上を集中的に進めるため、2009年1月から期限付きでプロジェクトチームを立ち上げました。

主な活動

① ヒューマンエラーの防止

決められた通りの作業を行うために、作業員同士でお互いを監査する“相互監査”の仕組みを導入しました。

(相互監査の例)

製造課		監査担当名		被監査者名	
相互監査チェック表		加工機名		K#号	
日付 2009年5月21日		時間 時:分		8:45-10:45	
チェック項目	配点	得点	指摘事項 (減点対象)		
1 条件指示書の内容通りの加工か。記録は正確か。異なる箇所につき → 5点	15点	15	条件指示書に異常、記録		
2 条件指示書の重要点はないか。(重要点の重要依頼の処理中は減点対象) 変更前事項につき → 5点	15点	15		
3 ① 注意作業手順書を活用。② 指示書種の提示。該当外一件 → 5点	10点	10		
4 工程内検査の手順。① 手順通りか。② 結果は適当か。③ 全員でできているか。④ 指摘呼称しているか。該当外一件 → 15点	60点	45		
合計	85				
その他	良品率の向上加工工程内不良が確認された。(詳細は、メール報告済み)				

製造課		監査担当名		被監査者名	
相互監査チェック表		加工機名		E#	
日付 2009年4月27日		時間 時:分		15:30-16:00	
チェック項目	配点	得点	指摘事項 (減点対象)		
1 条件指示書の内容通りの加工か。記録は正確か。異なる箇所につき → 5点	15点	15		
2 条件指示書の重要点はないか。(重要点の重要依頼の処理中は減点対象) 変更前事項につき → 5点	15点	15		
3 ① 注意作業手順書を活用。② 指示書種の提示。該当外一件 → 5点	10点	10		
4 工程内検査の手順。① 手順通りか。② 結果は適当か。③ 全員でできているか。④ 指摘呼称しているか。該当外一件 → 15点	60点	45		
合計	85				
その他					

検査課		監査担当名		被監査者名	
相互監査チェック表		加工機名		検査3号機	
日付 2009/4/27		時間 時:分		14:45-15:05	
チェック項目	配点	得点	状況内容		
1 条件指示書の内容通り加工されているか。異なる箇所につき → 5点	20点	20		
2 条件指示書は更新されており、現状とあっているか。変更前事項につき → 5点	20点	20		
3 欠点隠蔽はあるか? 色相見本はあるか? 白カブツの付着はないか? 50.8mmへの長さ調整も、検査側から目を凝らさぬよう注意しながらか実施されていた。	20点	20		
4 検査員の視点が検査面から外れることはないか? 検査中 一回につき → 10点	40点	40		
合計	100				
その他					

② わかりやすい作業指示

特に注意を要する作業には指示事項の履行を徹底するために、写真や図を利用した注意作業手順書を作成しました。

(注意作業手順書の例)

注意作業手順書		承認	確認	作成
不良発生事例				
裏処理液の耳部飛散汚れ		NO.	N2-104	
発行日	2009年6月8日	発行日	2009年6月8日	
改訂履歴		部署	プリント班	
		作成者	清水吉雄	

不良発生場所
1stグラビア直前

不良内容
裏処理液の耳部飛散、付着転写汚れ3反

発生原因
加工数量が多い場合ロール端に処理液の塊が付着、ロールの回転により飛ばされる。

処置
ヘラウエス等で処理液の塊を取り除く。

要注意検査事項
グラビアロール端から液が前方に飛び散っていないか? グラビアロール下のガイドロールに処理液が付着していないか?

注意作業手順書		承認	確認	作成
ベタックスC-S等 粘着加工品 違反				
NO.	F2-104			
作成日	2009年5月26日			
改訂履歴		部署	センター班	
		作成者	高宮	

巻き軸 130cmφ アルミ管

オモ字面が巻き内になるよう巻上げ。表面判定不能の場合、技術に確認。

条件指示書の加工指示欄にて「裏面粘着」か「脱面粘着」かを確認。粘着加工面が異なる場合は別巻き

品名はベタックスC-S、ベタックスT、イベントCの3種あり。品名が異なる場合は別巻き

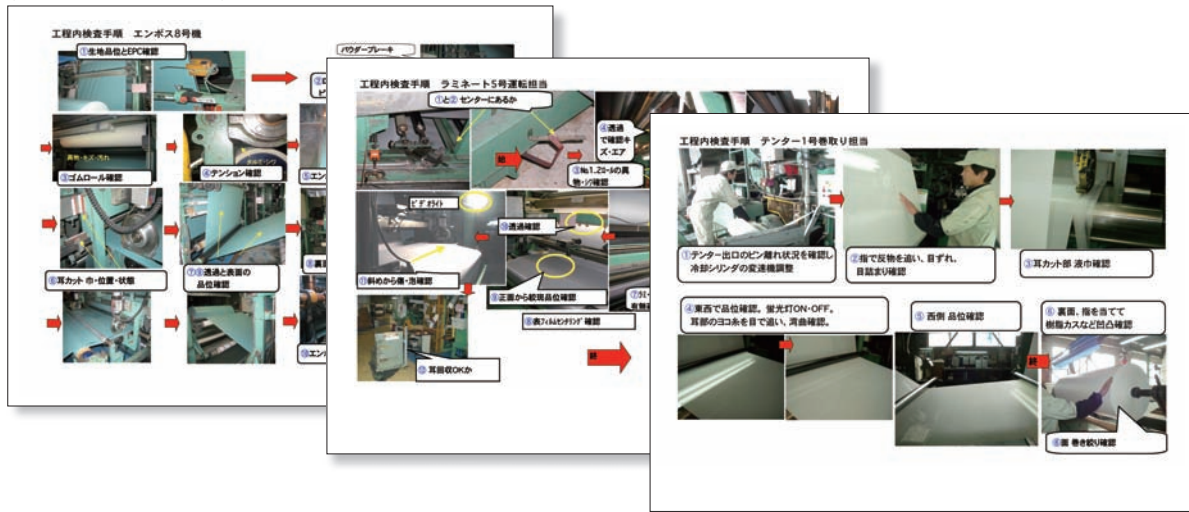
厚さ巾92cmと102cmの2種あり。巾が異なる場合は、良品でも別巻き

プリント2号行きの指図あり。チェックカードで次工程確認

③ 工程内検査の充実

工程内検査手順として取り決めて品位確認作業の一元化を図りました。

(工程内検査手順の例)



④ 3S活動の徹底

工場全体で3S活動を徹底し、その実行度合いを自己評価しました。

(3S自己評価書の例)

評価基準				自己評価 年月	当月自己評価点	実施結果
項目	あるべき姿	配点	評価基準	1 課題(各項目3件まで)を記入。 2 翌月に○できた・×できていない記号表示。 3 第三者からの指導事項は1件のみ指摘とする。 7月7日 5/3 担当名 寺岡		
道具箱、備品置き場・共用書庫とロッカーおよび材料棚の2S	必要以上の持ち込みがなく、置き場が明示されており、すくに取り出せる。	15	必要以上の持ち込みがある。 -5点 置き場が決まられていない。 -5点 前に物などが取り出しにくい。 -5点	T1西側の棚に何を保管する棚か表示がない。		○ ×
共用場所に管理者不明物がないか。	職場に用途・管理者不明のものがない。	15	用途・管理者不明のものがある。不明物1点につき -3点			5
設備・事務機器・実験装置・空調フィルターの清掃	各設備や設備が清掃されていて、点検もされている。	15	清掃・点検されていない機器類がある。一件につき -2点	テンター入口下や出口などが可塑剤や樹脂カスで汚れている。		○
床面、通路の清掃	汚れ、ゴミ、埃がない。	15	ゴミ類があり清掃されていない。 -10点 ゴミがあるが汚れていない。 -7点 ゴミ類はないが汚れている。 -4点 清掃が行き届いている。 -0点 中間の評価点も可能。	1号東側通路の隅にホコリが溜まっている部分がある。		○
白線管理	通路へのはみ出しがなく、物が直角・平行に置かれている。	10	通路へのはみ出し。1ヶ所につき -5点、2ヶ所以上 -10点 直角・平行に置かれていない。 -5点 1ヶ所につき -5点、2ヶ所以上 -10点 置き場が清掃されていない。5点の減点	メッシュ生地がきれいに置かれている。 巻き取り機周辺の整理、整頓ができていない。		○ ○
掲示板の2S	期限切れの掲示物がなく、業務計画など適切な掲示物がすっきりと掲示されている。	15	期限切れや不要な掲示物がある。1点につき -5点、2点以上 -10点 直角・平行に掲示されていない。 -5点 品質方針、業務計画が掲示されていない。 -5点 事故金額などの成績が掲示されていない。 -5点	業務計画や良反率などの成績に関する掲示がない。		○
						15 20

「環境活動」

カンボウプラスは、従業員の環境意識向上を図る取り組みを行っています。

当社は、1998年に福井工場が環境マネジメントシステム「ISO14001」を認証取得、運用する中で環境への意識向上を図ってまいりました。さらなる意識向上を図るには会社として環境活動参加を宣言し、その中で従業員一人ひとりが自主的に環境活動に参加することが一番良いと考え、平成20年7月、国民的プロジェクト『チーム・マイナス6%』に参加しました。

その一環として社内で『チーム・マイナス6%』のチーム員を募集、従業員が個々に取り組める活動を5つ挙げ、その中からどの活動を実行するのか宣言するかたちで取り組んでいます。また、参加意識を深めるため、当社独自ではありますが活動ごとに社内エコポイントを設定し、個人ごとに活動量が見えるようにしています。

- ①レジ袋削減活動（活動者には、エコバッグの支給）…………… エコポイント:1P/配布時
- ②環境家計簿への参加…………… エコポイント:1P/月
- ③ノーマイカーおよび自動車相乗り、
ノエレベーターデーの実施…………… エコポイント:3P/2回
- ④各事業所周辺の清掃活動…………… エコポイント:3P/1回
- ⑤マイ箸持参運動…………… エコポイント:1P/1ヶ月



ノーマイカーの参加延べ人数は約1,500人、10月から毎月第1月曜日に実施した事業所周辺の早朝清掃の参加延べ人数は約140人となり、地球温暖化防止という大きなテーマから身の回りの環境美化まで、従業員の環境意識は確実に高くなってきました。



当社製品のご紹介

建築資材関連分野

建築用シート、クロス、幕、素材など



物流・車輛・船舶関連分野

幌、カバー、幕、テープ、各種シートなど



環境関連資材分野

防災頭巾、オイルフェンス、各種カバーなど



インテリア・生活・食品関連分野

カーテン、ロールスクリーン、保護材、クロス、各種シートなど



広告関連分野

旗、インクジェットメディア、幕看板など



スポーツ関連分野

トランポリン、マット、ネットなど



新商品「グランシャルシート」

屋外路面用印刷メディアとして地面に広告が貼れる新感覚の印刷メディアです。



新商品「ダイナスター」

表面層に酸化チタン触媒処理を施し、『セルフリニューアルシステム』により表面層を分解するとともに、付着した汚れも除去して美しい外観を長期間保ちます。



土木資材関連分野

土木用資材、テープ、各種メッシュなど



工場関連分野

カバー、テント、緩衝材、パーテーション、各種シートなど



防災関連分野

シャッター、袋、マット、カバー、各種シートなど



農林水産関連分野

水槽、プール、農業用シートなど



イベント関連分野

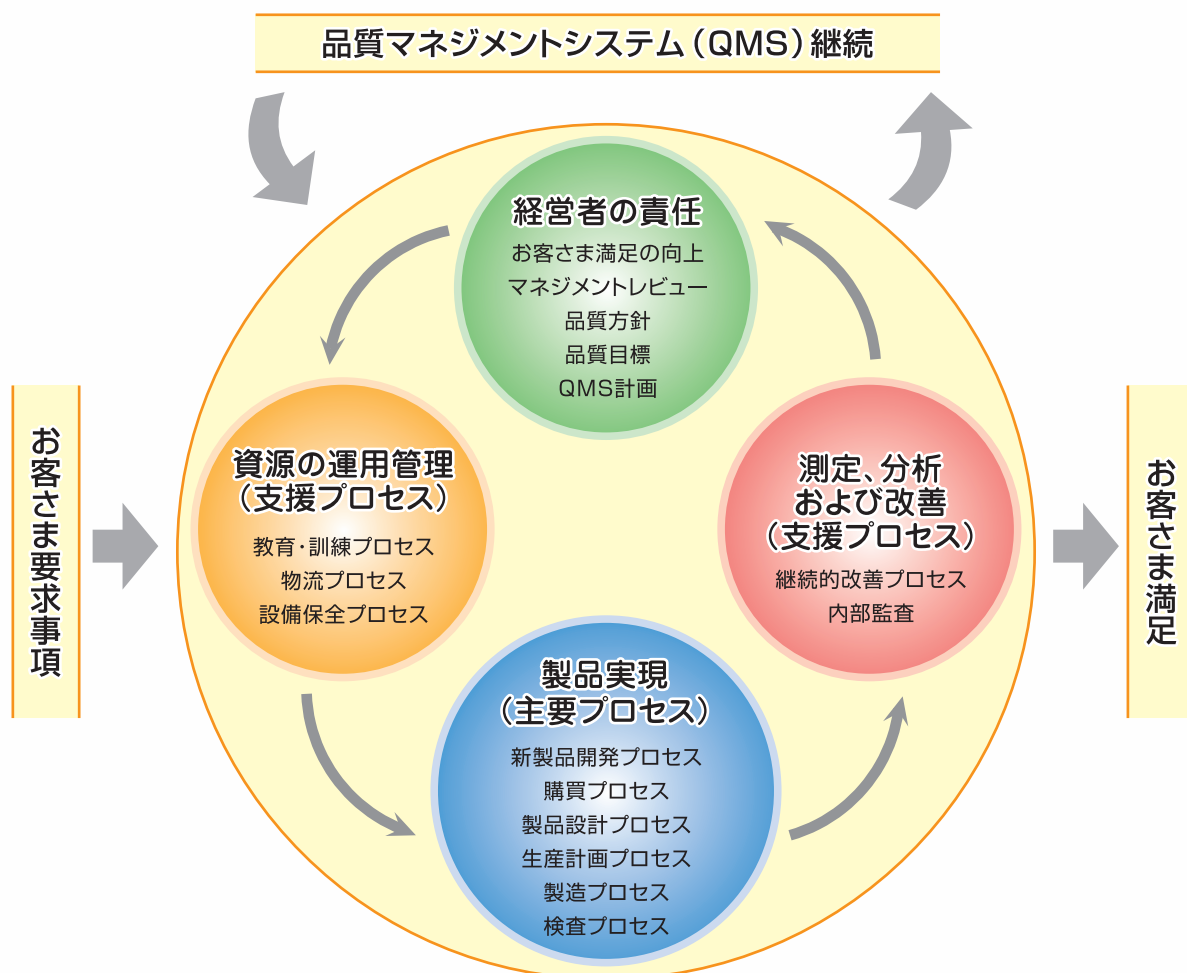
エアアーチ、テント、ぬいぐるみ、各種シートなど



品質管理について

カンボウプラスの製品は、品質マネジメントシステム「ISO9001」に基づき、設計から製造にいたるまでの各段階において社内審査が設けられており、それらの審査に合格したものをお客さまに提供しています。

品質管理フロー図



内部通報制度 (カンボウヘルプライン)

カンボウプラスでは、組織的または個人による不正・違法・反倫理的行為等の防止、早期発見および是正を図りカンボウグループの倫理・法令遵守を推進することを目的として、内部通報制度を設けております。通報者には不利益な取り扱いをしないことを規定しています。

企業倫理、法令遵守、環境配慮意識調査

カンボウプラスでは、社員の企業倫理、法令遵守および環境に対する意識をアンケート調査し、社員が行動指針の実践により、社会に貢献できているか確認していきます。

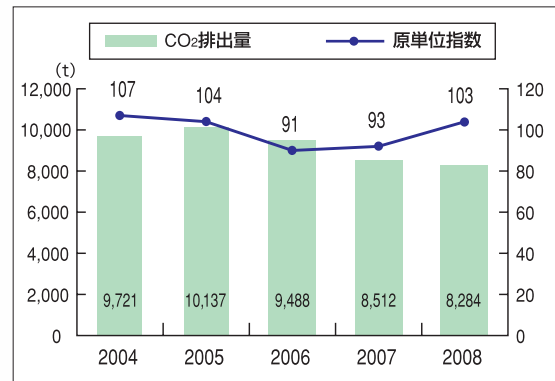
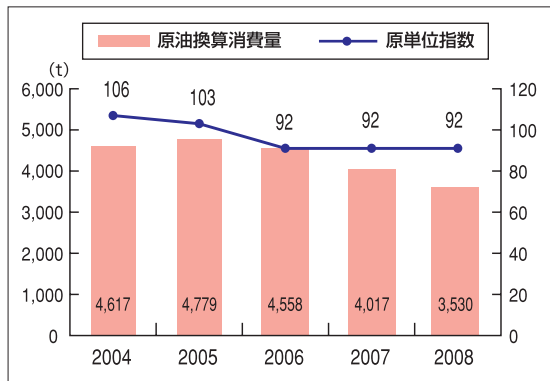
事業活動における環境負荷 (弊社工場)



地球温暖化防止への取り組み

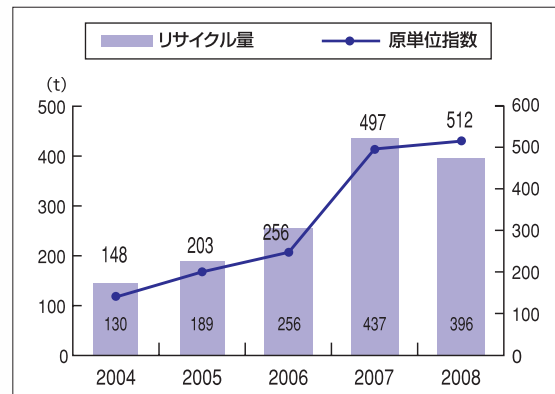
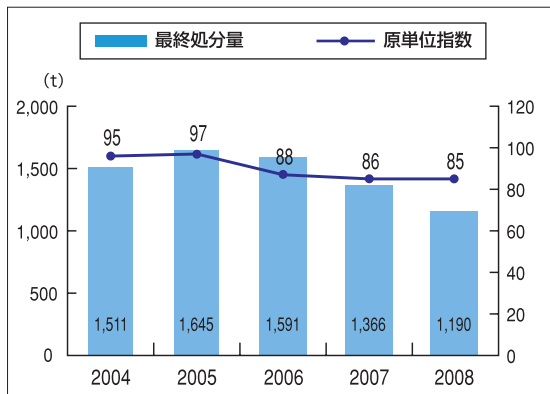
二酸化炭素など温室効果ガス削減のため、事業所内で使用するエネルギーの低減に努めています。2008年度につきましては、秋以降の世界同時不況により生産数量が大きく落ち込み、エネルギーの使用量、CO₂排出量の絶対量は減少したものの、2003年度を100とした原単位指数は悪化しました。

物流分野でのCO₂削減については、主にモーダルシフトを中心に取り組んでおり、2008年度はモーダルシフトだけで151tのCO₂を削減しました。



廃棄物削減への取り組み

フィルムを含む樹脂については従来からのリサイクルを継続しており、2008年度はトリミング屑についてもリサイクルを始めました。



※原単位指数は2003年度を100としている

有害化学物質への対応

カンボウプラスは、事業所内でPRTR法の定める対象物質を使用しております。アジピン酸ビス・アンチモン及びその化合物・エチルベンゼン・キシレン・六価クロム化合物・N,N-ジメチルホルムアミド・トルエン・鉛及びその化合物・フタル酸ビスの9物質です。

これらは法律の定めにより取扱量・排出量・移動量の調査、届け出を実施しています。

また、RoHS指令にて指定されている6物質のうち、六価クロム化合物、鉛及びその化合物の2物質を使用しています。これらの物質に関して2011年度までに取扱量を全廃するための取り組みを行っています。

PRTR物質の取扱量と排出量・移動量(2008年度)

(単位:t)

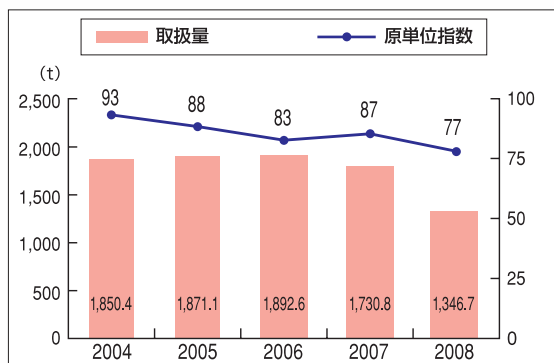
化学物質名	取扱量	排出量	移動量
アジピン酸ビス	78.3	1.8	14.0
アンチモン及びその化合物	129.8	—	19.0
エチルベンゼン	56.3	12.0	30.0
キシレン	91.9	20.0	49.0
六価クロム化合物	0.8	—	0.1
N,N-ジメチルホルムアミド	10.7	10.3	0.3
トルエン	40.6	30.0	4.3
鉛及びその化合物	2.1	—	0.2
フタル酸ビス	936.2	19.0	130.0
合計	1346.7	93.1	246.9

PRTR法:特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律

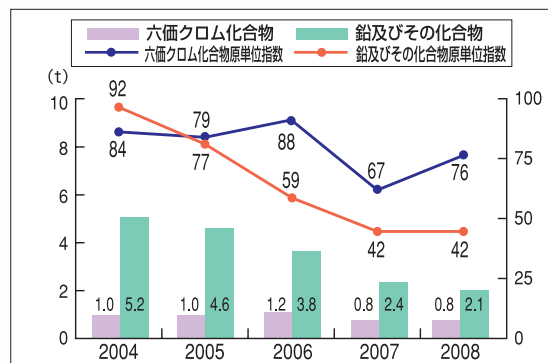
平成22年度(平成23年度届出)より、PRTRおよびMSDSの対象物質が変更されます。但し、MSDS関係は平成21年10月1日から変更となります。

第一種化学物質 354→462物質
 特定第一種指定化学物質 12→15物質
 第二種化学物質 81→100物質

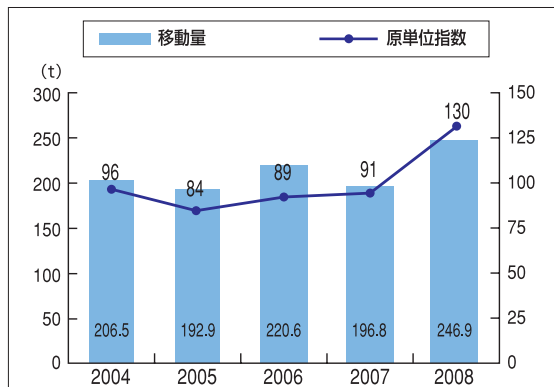
PRTR物質取扱量



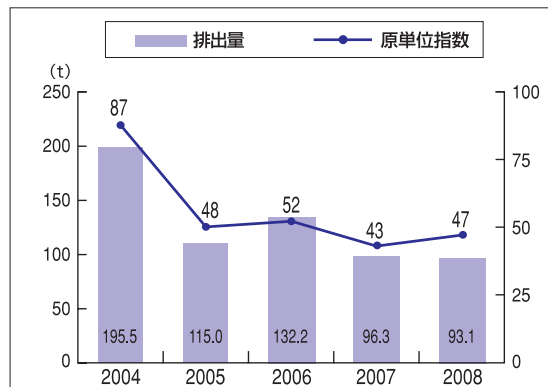
六価クロム化合物、鉛及びその化合物取扱量



PRTR物質移動量



PRTR物質排出量



※原単位指数は2003年度を100としている

従業員への環境教育

環境への取り組みの1つとして、環境をテーマに教育・啓蒙を実施いたしました。

実施日	研修名	研修内容
平成20年 7月	監督職研修	環境ビデオ「不都合な真実」鑑賞 家庭でできる環境対策について
平成20年 9月	労使環境研修	環境ビデオ「+6℃」鑑賞
平成20年10月	管理職研修	大阪市環境局舞洲工場等見学
平成20年11月	グループ会社研修	環境ビデオ「不都合な真実」鑑賞 家庭でできる環境対策 CSRについて

(大阪市環境局舞洲工場等見学写真)



研修後のアンケート

- ・ 環境(エコ)について家族と話し合い、できることから実行したい。
- ・ 今からでは遅くなく、明日からでは遅くなるかもしれない。何でもできることから始めたい。
- ・ 当社は、PVCを主体とした製品を生産している。一時期PVCは、ダイオキシンの元であり、「環境に悪」とされてきた。真実は「PVCは環境にやさしい」ではないか。
- ・ CO₂を減らして加工しているということをも自信を持って言えるよう個人としてアイデアを出しながら参加したい。



メンタルヘルス教育

職場のメンタルヘルス対策として、社会保険労務士品川先生を講師にお招きし、グループ会社を含めた従業員に対し、メンタルヘルスの知識や予防について勉強会(土曜講座・事務職研修)を実施いたしました。講義の中にはストレス診断等もあり、自分のストレス度のチェックも行いました。

実施日	研修名	対象
2008年 9月	土曜講座	グループ本社従業員
2008年11月	事務職研修	福井工場事務職
2009年 2月	土曜講座	グループ東京支店従業員

CSR自己評価(100点満点)

関係	取り組み	自己評価指標	前年度評価	当年度評価
お客さま 15点/25点	製品安全推進	品質事故・重大クレーム件数	2点	2点
		自主点検による事故防止・クレームの予防措置件数	5点	5点
	環境対応製品上梓	新規上梓した環境対応製品数	5点	2点
	行動指針実践	当社社員の行動調査アンケート結果	4点	4点
	製品情報提供	製品情報(MSDS・含有量調査等)提供件数	3点	2点
従業員 17点/30点	労働安全推進	労災発生件数	1点	1点
		作業環境是正件数/改善提案総数	4点	5点
	障がい者雇用推進	障がい者雇用人数	3点	3点
	CSR・環境教育訓練	社内研修出席者延べ人数	2点	2点
	働きやすい職場作り	雇用延長者人数	4点	5点
		育児・介護休暇取得人数	1点	1点
社会 13点/15点	法令遵守・倫理意識向上	社内意識調査結果	3点	3点
	工場周辺社会との調和	苦情受付件数	5点	5点
	貢献活動への参画	活動へ参画した件数	2点	5点
環境 16点/30点	二酸化炭素排出削減	二酸化炭素排出量対前年削減率	5点	5点
	廃棄物削減	廃棄物処分量原単位対前年削減率	3点	1点
	省エネルギー推進	エネルギー原単位対前年削減率	1点	1点
	グリーン調達推進	Aランクお取引先数/全お取引先数	5点	5点
	環境対応製品販売促進	環境対応製品売上高/総売上高	2点	1点
	環境配慮意識向上	社内意識調査結果平均点	2点	3点
CSR自己評価合計			62点	61点

(自己評価について)

- ・各自己評価指標は、数値により結果が把握できるものを選んで指標にした
- ・評点は、数値で把握した各評価指標を、度合いに応じて5点満点で評価した
- ・「品質事故・重大クレーム件数」「自主点検による事故防止・クレームの予防措置件数」「Aランクお取引先数/全お取引先数」はISOに準拠する
- ・「労災発生件数」は労働基準監督署へ提出した件数とした
- ・「改善提案総数」は労働安全委員会での付議事項の数とした
- ・「新規上梓した環境対応製品数」は各年度に上梓し売上高が計上された製品のうち、「環境に配慮した製品のガイドライン」に該当する製品の売上高に占める割合とした

カンボプラス株式会社

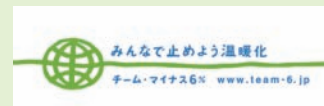
〒541-0054

大阪市中央区南本町1-8-14 堺筋本町ビル

TEL 06-6262-1277 FAX 06-6262-9419

URL <http://www.kanbo.co.jp/>

お問い合わせ先：総務部



カンボプラスはチーム・マイナス6%に参加しています。